

岐阜市の児童生徒における「医薬品について」のアンケート調査結果

日本学術振興会科学研究費補助金 事業

岐阜薬科大学実践薬学大講座病院薬学研究室教授 寺町ひとみ

平成 29 年 10 月～11 月に、継続した調査としまして、岐阜市の小学校 6 年生、中学校 2 年生および高校 1 年生の児童・生徒を対象にした「医薬品の正しい使い方」に関する知識・意識調査を行いました。ご協力いただきましたことをお礼申し上げます。以下にアンケート調査結果についてご報告いたします。

1. 回収数および有効回答率

	学校			児童生徒						
	配布校	回収校	回収率(%)	配布人数	回収人数	回収率(人)	有効回答数(人)	有効回答率(%)	性 別	
									男	女
小学校(岐阜市)	46	45	97.8	1368	1361	99.5	1333	97.9	643	690
中学校(岐阜市)	22	22	100	1481	1476	99.7	1387	94.0	676	711
高 校(岐阜市)	1	1	100	160	159	99.4	151	95.0	75	76

小学校は同意が得られた岐阜市の 45 校 6 年生 1 クラス全員の児童を対象にした。中学校は岐阜市の 22 校 2 年生 2 クラス全員の生徒を対象にした。高校は岐阜市の 1 校 1 年生 4 クラス全員の生徒を対象にした。なお、本調査に協力の同意が得られた児童・生徒を対象にした。

2. 児童・生徒における学校種別集計結果

(1)体調不良時の対処(複数回答)

(%)	早めに寝る	家で薬を飲む	家族に相談する	学校の先生に相談する	病院に行く	薬局で相談する	その他
小学生	48.2	64.4	70.0	20.5	60.1	4.3	5.8
男	63.3	64.5	64.2	18.0	55.8	5.3	6.1
女	71.0	64.2	75.4	22.8	64.1	3.3	5.5
χ^2 検定	p<0.01	NS	p<0.001	p<0.05	p<0.01	NS	NS
中学生	65.9	62.7	57.0	10.6	52.8	3.0	6.1
男	67.5	57.7	50.0	10.7	48.8	4.1	7.4
女	64.4	67.5	63.6	10.5	56.5	1.8	4.9
χ^2 検定	NS	p<0.001	p<0.001	NS	p<0.01	p<0.05	NS
高校生	73.5	55.0	41.7	2.6	42.4	1.3	4.0
男	74.7	49.3	33.3	2.7	44.0	1.3	2.7
女	72.4	60.5	50.0	2.6	40.8	1.3	5.3
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

小学生は、家族に相談するが 70.0%、中学生・高校生は早めに寝るが 65.9%、73.5%と一番多かった。病院に行くについては、小学生が 60.1%、中学生が 52.8%、高校生は 42.4%で、いずれも減少傾向を示した。全体的に男子より女子が多いが、特に家族に相談するについては小学生・中学生の女子では男子より多かった。

(2)医薬品の使用目的(複数回答)

(%)	腹痛	頭痛	下痢	かぜ	発熱	歯痛	アレルギー	酔い止め	その他
小学生	30.2	44.0	15.2	77.0	77.3	4.1	39.8	37.4	7.8
男	28.5	43.9	16.8	73.4	72.3	2.8	37.8	29.9	7.9
女	31.7	44.2	13.8	80.3	82.0	5.2	41.6	44.5	7.7
χ^2 検定	NS	NS	NS	p<0.01	p<0.001	p<0.05	NS	p<0.001	NS
中学生	36.1	48.4	14.6	71.3	70.4	4.5	40.9	35.5	7.5
男	29.0	42.9	16.3	66.9	69.5	2.8	37.7	25.7	8.1
女	42.9	53.7	12.9	75.5	71.2	6.2	43.9	44.9	6.9
χ^2 検定	p<0.001	p<0.001	NS	p<0.001	NS	p<0.01	p<0.05	p<0.001	NS
高校生	43.0	47.7	11.9	62.9	60.3	3.3	36.4	27.2	7.3
男	32.0	46.7	12.0	66.7	56.0	5.3	33.3	18.7	8.0
女	53.9	48.7	11.8	59.2	64.5	1.3	39.5	35.5	6.6
χ^2 検定	p<0.05	NS	NS	NS	NS	NS	NS	p<0.05	NS

かぜや発熱の使用目的が小学生・中学生・高校生いずれも多かった。全体的に男子より女子が多いが、特に酔い止めについては、女子が男子より多かった。女子中学生・高校生では腹痛が男子より多かった。

(3)医薬品の使用時における相談相手(複数回答)

(%)	両親・ 祖父母	兄弟・ 姉妹	友達	医師・ 歯科医師	薬剤師	学校の 先生	①	②	その他
小学生	91.6	6.2	2.6	26.9	9.1	5.3	17.4	10.2	0.7
男	89.1	4.8	1.6	24.7	7.9	5.1	15.7	12.3	1.1
女	93.9	7.5	3.6	29.0	10.1	5.5	19.0	8.3	0.3
χ^2 検定	p<0.01	NS	p<0.05	NS	NS	NS	NS	p<0.05	NS
中学生	88.6	4.0	3.0	27.2	8.7	2.9	17.1	12.4	1.0
男	85.2	2.8	2.8	26.8	10.4	3.3	16.0	11.7	1.2
女	91.8	5.2	3.2	27.6	7.2	2.5	18.1	13.1	0.8
χ^2 検定	p<0.001	p<0.05	NS	NS	p<0.05	NS	NS	NS	NS
高校生	85.4	1.3	2.6	21.9	3.3	0.0	11.9	16.6	1.3
男	82.7	0.0	2.7	21.3	2.7	0.0	13.3	20.0	1.3
女	88.2	2.6	2.6	22.4	3.9	0.0	10.5	13.2	1.3
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

相談相手では両親・祖父母が小学生・中学生・高校生いずれも多く、特に女子の方が男子より多い傾向があった。

①治療や予防のためにいつも飲んだり、使ったりしなければならない薬があるので、自分の判断で使う

②治療や予防のためにいつも飲んだり、使ったりしなければならない薬があるわけではないが、自分の判断で使う

(4)自己判断による購入経験

(5)友人からの譲り受け経験

(6)友人への譲渡経験

(%)	ある	ない
小学生	3.5	96.5
男	3.6	96.4
女	3.5	96.5
χ^2 検定	NS	
中学生	9.2	90.8
男	8.9	91.1
女	9.4	90.6
χ^2 検定	NS	
高校生	17.9	82.1
男	22.7	77.3
女	13.2	86.8
χ^2 検定	NS	

(%)	ある	ない
小学生	4.8	95.2
男	4.2	95.8
女	5.4	94.6
χ^2 検定	NS	
中学生	9.2	90.8
男	6.1	93.9
女	12.1	87.9
χ^2 検定	p<0.001	
高校生	20.5	79.5
男	10.7	89.3
女	30.3	69.7
χ^2 検定	p<0.01	

(%)	ある	ない
小学生	3.8	96.2
男	3.0	97.0
女	4.6	95.4
χ^2 検定	NS	
中学生	8.4	91.6
男	5.2	94.8
女	11.5	88.5
χ^2 検定	p<0.001	
高校生	21.9	78.1
男	16.0	84.0
女	27.6	72.4
χ^2 検定	NS	

自己判断による購入経験、友人からの譲り受け経験、譲渡経験はわずかではあるが「ある」の回答があった。特に、女子高校生は男子より友人からの譲り受け経験、譲渡経験が多い傾向があった。

(7)医薬品の使用時における注意点(複数回答)

(%)	薬の注意書きを見る	いくつ飲むか確認する	いつ飲むか確認する	食事をしたか確認する	水で飲むようにする	体質を確認する	自分ではあまり気をつけない	その他
小学生	56.9	85.5	80.9	34.6	75.8	13.7	4.6	1.8
男	52.7	82.3	76.4	34.5	75.3	14.0	6.2	1.7
女	60.7	88.6	85.2	34.6	76.2	13.5	3.0	1.9
χ^2 検定	p<0.01	p<0.01	p<0.001	NS	NS	NS	p<0.01	NS
中学生	51.7	83.5	75.4	33.8	67.6	11.0	5.0	2.2
男	51.6	79.7	71.7	33.0	65.2	9.9	7.0	3.1
女	51.8	87.1	78.9	34.6	69.8	12.0	3.2	1.4
χ^2 検定	NS	p<0.001	p<0.01	NS	NS	NS	p<0.01	NS
高校生	43.0	76.8	61.6	33.8	62.3	5.3	5.3	0.7
男	37.3	66.7	49.3	25.3	57.3	4.0	8.0	1.3
女	48.7	86.8	73.7	42.1	67.1	6.6	2.6	0.0
χ^2 検定	NS	p<0.01	p<0.01	p<0.05	NS	NS	NS	NS

医薬品を使用する時には、小学生、中学生、高校生いずれも、いくつ飲むか、いつ飲むか確認するの回答が多かった。

(8)医薬品に関する用語の認識度(複数回答)

(%)	一般用 医薬品	医療用 医薬品	ジェネ リック医	かかり つけ薬	お薬手 帳	ドーピン グ	学校薬 剤師
中学生	47.2	57.0	61.8	44.5	85.1	61.9	31.1
男	51.0	55.9	59.0	38.3	80.3	72.5	32.5
女	43.5	57.9	64.4	50.4	89.7	51.9	29.7
χ^2 検定	p<0.01	NS	p<0.05	p<0.001	p<0.001	p<0.001	NS
高校生	43.7	57.0	56.3	55.0	82.1	76.2	19.9
男	42.7	56.0	62.7	46.7	76.0	86.7	13.3
女	44.7	57.9	50.0	63.2	88.2	65.8	26.3
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	p<0.01	NS

※「知っている」と回答した割合

(9)医薬品に関する知識の理解度(複数回答)

(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
小学生	83.4	78.0	51.3	63.5	62.7			
男	80.4	76.5	50.2	60.8	62.7			
女	86.2	79.4	52.3	66.1	62.8			
χ^2 検定	p<0.01	NS	NS	NS	NS			
中学生	80.0	72.5	42.4	53.1	59.7	81.2	73.3	30.6
男	78.0	74.1	44.8	53.6	60.7	79.1	71.3	32.4
女	82.0	70.9	40.1	52.7	58.8	83.1	75.1	29.0
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS
高校生	78.8	69.5	37.7	44.4	58.3	76.2	66.2	27.8
男	78.7	69.3	37.3	40.0	54.7	68.0	61.3	32.0
女	78.9	69.7	38.2	48.7	61.8	84.2	71.1	23.7
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	p<0.05	NS	NS

全体的に、薬を牛乳やジュースで飲んではいけない場合があることの理解度が高かった。中・高校生においては、正しい量の薬を飲んで、すぐに効かない場合でもそれ以上の薬を余分に飲んではいけないことの理解度が高かった。正しい量の薬を飲んで、すぐに効かない場合でもそれ以上の薬を余分に飲んではいけないことの理解度が女子の方が男子より高い傾向があった。

- ①薬を牛乳やジュースで飲んではいけない場合がある
 ②錠剤をガリガリかんで細かくして飲んだり、カプセル剤の中身を出して飲んだりすることは、よくない場合がある
 ③薬の飲み方(食間)とは、食後2時間程度たってから飲む薬のことで、食事中に飲む薬ではない
 ④かぜで病院へ行き、5日分の薬をもらって、3日で熱も下がりがり学校に行けるようになって、残った2日分をすべて、飲まなくてはいけない場合がある
 ⑤ほとんどの薬には、副作用があるといわれている
 ⑥正しい量の薬を飲んで、すぐに効かない場合でもそれ以上の量の薬を余分に飲んではいけない
 ⑦定期的にもむ薬を一度飲み忘れたら、次に飲むとき、2回分をまとめて飲んではいけない
 ⑧市販の風邪薬には、症状を和らげる成分は入っているが、病原体を殺す成分は入っていない

(10)学校での医薬品に関する授業経験

(%)	ある	ない	わから ない
中学生	35.8	16.8	47.4
男	42.2	14.8	43.0
女	29.7	18.7	51.6
χ^2 検定	p<0.001		
高校生	47.0	11.9	41.1
男	45.3	12.0	42.7
女	48.7	11.8	39.5
χ^2 検定	NS		

医薬品に関する授業経験があると回答した割合は、中学生に比べ、高校生の方が高かった。また、半数ほどの生徒がわからないと回答した。

(11)学校での医薬品に関する授業科目((10)で「ある」と回答した生徒)

(%)	中学校の 保健体育	高校の保 健体育	総合学習 または学 級活動	講演会	その他	おぼえて いない
中学生: 496	24.2		44.0	54.0	1.6	8.5
男: 285	23.9		46.0	54.7	1.4	7.0
女: 211	24.6		41.2	53.1	1.9	10.4
χ^2 検定	NS		NS	NS	NS	NS
高校生: 71	90.1	64.8	9.9	16.9	0.0	1.4
男: 34	94.1	64.7	14.7	17.6	0.0	0.0
女: 37	86.5	64.9	5.4	16.2	0.0	2.7
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS		NS

中学生の多くは講演会、高校生の多くは中学校の保健体育と回答した。

3. 生徒における「医薬品に関する授業」の有無と薬に関する用語および知識の関係

((10)で「ある」または「ない」と回答した生徒)

(1)医薬品の購入・譲り受け・譲渡経験

(%)	「ある」	「ない」	(%)	「ある」	「ない」	(%)	「ある」	「ない」
中学生			中学生			中学生		
ある: 496人	10.5	89.5	ある: 496人	9.5	90.5	ある: 496人	8.5	91.5
ない: 233人	8.4	91.6	ない: 233人	9.0	91.0	ない: 233人	8.4	91.6
χ^2 検定	NS		χ^2 検定	NS		χ^2 検定	NS	
高校生			高校生			高校生		
ある: 71人	15.5	84.5	ある: 71人	21.1	78.9	ある: 71人	25.4	74.6
ない: 18人	20.0	80.0	ない: 18人	20.0	80.0	ない: 18人	18.8	81.3
χ^2 検定	NS		χ^2 検定	NS		χ^2 検定	NS	

(2)医薬品に関する用語の認知度(複数回答可)

(%)	一般用 医薬品	医療用 医薬品	ジェネリック 医薬品	かかりつけ 薬局	お薬手帳	ドーピング	学校薬剤師
中学生							
ある: 496人	53.6	62.7	64.9	47.4	85.9	67.1	35.7
ない: 233人	42.1	52.8	56.7	40.3	83.7	56.7	20.6
χ^2 検定	p<0.01	p<0.05	p<0.05	NS	NS	p<0.01	p<0.001
高校生							
ある: 71人	47.9	64.8	60.6	64.8	81.7	77.5	18.3
ない: 18人	44.4	61.1	55.6	27.8	83.3	55.6	16.7
χ^2 検定	NS	NS	NS	p<0.05	NS	NS	NS

(3)医薬品に関する知識の理解度(複数回答可)

(%)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
中学生								
ある: 496人	82.7	74.6	44.6	56.0	64.3	84.1	75.4	34.3
ない: 233人	76.0	70.0	34.8	53.2	55.4	76.0	68.7	27.9
χ^2 検定	NS	NS	p<0.05	NS	p<0.05	p<0.05	NS	NS
高校生								
ある: 71人	81.7	71.8	40.8	46.5	60.6	78.9	73.2	29.6
ない: 18人	72.2	72.2	33.3	38.9	38.9	72.2	50.0	11.1
χ^2 検定	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS	NS

中学生、高校生のいずれにおいても、「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒と「ない」と回答した生徒の間で、薬品の購入・譲り受け・譲渡経験が「ある」と回答した割合に差はみられなかった。中学生・高校生いずれも「医薬品に関する授業」を受けたことが「ある」と回答した生徒の方が認知度、理解度について高い傾向があった。

4. まとめ

体調不良時の対処において、多くの小学生が家族に相談するに対して、多くの中学生・高校生が早めに寝ると回答しており、成長に応じた変化が見られた。また、医薬品の使用目的では、多くの小学生、中学生、高校生いずれもかぜ、発熱に対して医薬品を使用していることがわかった。医薬品の使用時には、多くの小学生、中学生、高校生いずれも両親・祖父母に相談することがわかった。自己判断による購入経験、友人からの譲り受け経験、譲渡経験はわずかではあるが「ある」の回答があり、特に、女子中学生、高校生で多い傾向があった。

高校1年生において、学校での医薬品に関する授業経験について「ある」が47.0%に対して、「ない」が11.9%、「わからない」が41.1%であった。「ある」と回答した生徒は、医薬品の用語の認知度および知識の理解度が高いことが明らかとなった。

今後、学校での「医薬品に関する授業」が効果的に実施されるよう大学の立場から情報提供およびアプローチをしていきたい。